

(18)

君津第3高炉の操業推移

新日鐵 君津製鐵所 守 圭介 楢岡正毅 水野祥男
久米正一○天野 繁

1. 序

君津第3高炉は、46年9月13日に火入れ後、順調な立上りを示し、約3ヶ月を経過した現在、出銑量は、約7000t/日で、燃料比は、約455Kg/tとなつた。ここに、その概況を報告する。

2. 生産

生産は、計画にしたがつて、図1に示す通り、徐々に立上がり、9月下旬、約2500t/日 10月下旬は約5500t/日、そして12月下旬は、約7000tとなつた。

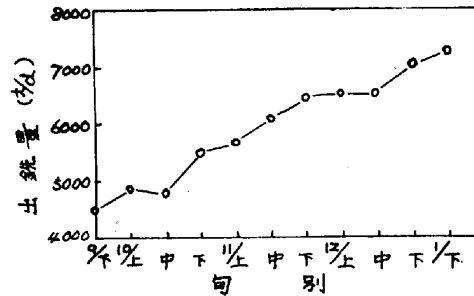


図1 生産量の推移

3. 燃料比

9月中旬、750Kg/tであつた燃料比が、下旬には529Kg/tとなり、以後図2に示す様な経過で、12

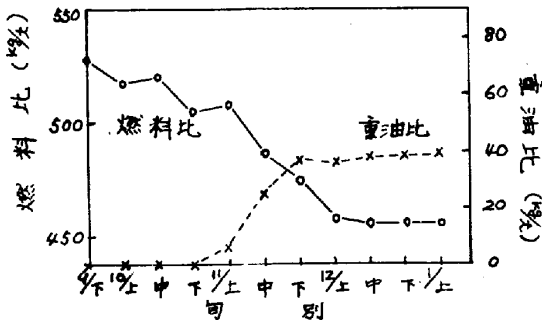


図2 燃料比の推移

月には、450Kg/tとなつた。この間、11月上旬より、重油吹込みを開始し、12月は、その量が約40Kg/tであつたため、コークス比としては約420Kg/tであつた。送風温度は、火入れ時、約750℃であつたが、10月には1000℃、11月1100℃と上げ、12月中旬より1270℃の指定とした。装入主原料は、火入れ時より、全て焼結鉱で、その装入量は、0/tで、12月下旬、3.85となつた。炉頂がスの利用率(CO₂/CO+CO₂)は、9月下旬約45%であつたが、次第に上昇し、12月上旬には50%を越えた。12月の月間平均操業状況を下記に示す。

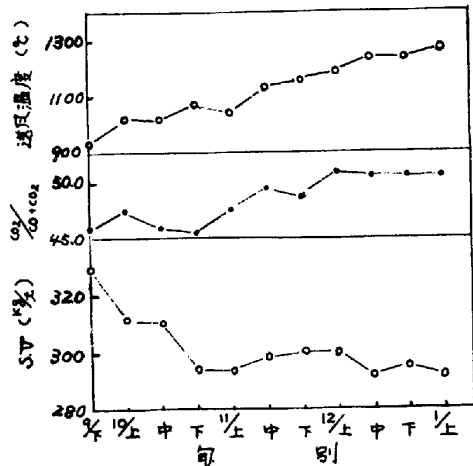


図3 送風温度、ガス利用率及びスラグ量の推移

出銑量	6.690 t/日
燃料比	455.2 Kg/t
コークス比	419 "
重油比	36.2 "
送風温度	1,230 °C
送風湿度	13.2 g/N m ³
スラグ量	296 Kg/t
ガス利用率	50.7 %

尚、生産、燃料比ともに、以降も順調に操業されており、47年1月上旬平均では、生産7265t/日、燃料比455Kg/tである。